

魂を燃やした鶴城祭

笑い・感動とともに閉幕

佐伯鶴城新聞



第83号
編集所 立城校
分集 県鶴城学
大分 伯鶴学
高 新 部
編集責任者 吉田 眞悟



力を込めた書に会場は沸く(書道)

初めての役に奮闘 最後までやり通せた

鶴城祭文化の部が9月7日から2日間にわたって行われた。1日目は佐伯文化会館で各文化部が日頃の練習や活動の成果を発表。2日目はクラス展示、ステージパフォーマンスが行われた。また、クラス展示は1年2組と1年5組が最優秀賞を受賞。受賞したクラスの人に感想を聞いた。



ALTと一緒にダンス(英語)



オープニングを飾る(吹奏楽)



力作『インスタグラム風 顔出し看板』



力を合わせて 舞台を盛り上げる(MC)



担任の佐々木先生も体験(1-5)

文化の部を執行委員長長の足田剛士さん(二一五)と、MCの江藤謙介さん(三三五)、加藤陸臣さん(三三五)に振り返ってもらった。足田さんは「準備不足気味だったが結果は盛り上がりつつ良かった」とまとめる。2日目の中庭イベントは、当初予定していた『未成年の主張』に参加を希望する生徒が集まらなかった。直前に応募をかけた『フアッシュョニショー』だったが、計15組、37人の生徒と先生方の協力で成功を収めることができた。「先生との連携を忘れず、自分たちの意見も大切にしたい」と足田さんは語る。

一方、足田さんは実行委員の出し物の『インスタグラム風 顔出し看板』について「中々の評判だった」と手ごたえを感じていた。MCとして開幕から文化の部を支えた加藤さんと江藤さん。加藤さんは「1日目は会場の雰囲気圧倒されてしまった。2日目は負けずに、最後までやり通すことができた」と話す。江藤さんは「人前に出て話すことの難しさを知った。1日目はすべったが、大学受験には滑らないようにしたい」と受験生らしく締めた。(吉田 眞悟)

最優秀賞は 1年2組と1年5組

今年度の展示部門は、最優秀賞を1年2組と1年5組の2クラスが受賞した。1年2組は『創星探究』をテーマに、四季折々の星座をイメージした展示を行った。出口響さんは「大量の新聞紙や段ボールを使って夜空を作り出した。外光を防ぐのが大変だった」と振り返った。

1年5組の展示は、人が乗れるジェットコースター、その名も『1-5 STAR』。廣瀬遥人さんは「教室という限られた空間での展示であるため、サイズや安全面には特に気を配った」と語る。「担任の佐々木正洋先生(物理)も加わり、クラスの皆で作りに上げることができた。最優秀賞を受賞することができて、本当に嬉しい」と話した。(橋 健太郎)